
《映画について》

とよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《映画について》

【Nコード】

N3261V

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

映画的なものについての作文

映画は本当に好きだ。

チーズバーガーとお菓子和コーラとタバコと映画さえあれば、一生
なにも要らないとさえ思える事は多々ある。

小説に関しては、飽きやすい俺でもなんとか読める星新一と筒井康
隆を読んだ程度で、それさえも、好きな人間からすれば、読んだう
ちに入らない斜め読みをした程度の経験であり、そう考えると俺の
小説の基本とは映画から来ているものが多く、というより、そもそ
も小説とは読むものでは無く、書くものだという意識が強い様にも
感じているので、物語の手法やプロセスは、やはり映画から学んだ
物が多い様に感じる。

しかし、他人が書く小説に対しての不満を書き出すと、知識が無い
ながらに、冷静に書いていながらも長文になってしまうのは仕方の
無い事で、今回は好きである映画の方について幾つか書いていこう
とは思いますが、まあ、本当に映画は好きなわけだ。

ジャンルはアクション、ホラー、ミステリーと、何でも見るが、コ
メディイに関してはミスタービーンは好きだが、自分が住む島国と
いう事もあり、日本のものが勝っている様に感じてしまい、お笑い
芸人の漫才やコントのお笑いライブのDVDが特に好きで、昔から
ネタ番組や、お笑い番組を好んで多く見ていたのが俺の小説作りに
役立つている様にも勝手に感じ、また、子供の頃はジャッキーチエ
ーンばかり見ていたのだが、ここ数年は、SF、ミステリー等は特
に、小説を書く為に役立つ様にも思い、意識的に見たりもした。

つまり努力をした。

大好きなジャッキチェーンだが小説で読みたいとは思わない。

恋愛やベタベタなファンタジーはあまり見ないが、恋愛なんてものはタイタニックとマムレードボーイを見ていれば十分だと考えてしまい、詳しくは無い人間なので一概には言えないが、恋愛に関しては、そもそも、話の手法やアイデアで勝負するジャンルでは無いし、また、その必要性も無いと感じているので、どちらにせよ個人的に好きにはなれないでいる。

とにかく「こんな話作っただ。こんなパターン思い付いたんだ。すげーなオイ」と、思いたいわけで、ホラーに関しては全体通し呪怨が群を抜いて面白く、特に劇場版2などは「こんなパターンがあったんですね。思い付きませんでしたよ」と、納得させられ、当サイト【小説家になろう】に登録する友達でもある、うわの空先生にも勧めてみたら「面白い」と返事を頂いたのでココでも勧め書きをしておく。

勧め書きしたついでに、もう数本書きたいのだが、ミステリーからも1本、最近見た【羊達の沈黙】が面白く、それは話の作り自体も良いが、特にレクター博士といわれるキャラクターが素晴らしく、コイツの台詞回しを見た後は、小説を書きたくなくなったのだが、全てコイツっぽい台詞回しになってしまったので参考にはならず、また、それ程影響力が強いキャラなのだとなんか納得させられ、無意識を含め、必ず勉強にはなっているので、良い事には変わりはない。

SFからは、これまた最近、ココ1年で見えたものだが【バタフライエフェクト】を勧めたい。

SFに関しては、自分自身の性質も含め、俺も度々書くジャンルではあるが、骨組みは大体決まっている様に感じる。

日本では「スターウォーズ」を中心としたスペースオペラをイメージされる事が多い様に思い、タイムマシンに限っては「バグ・トウザ・フューチャー」が好きで、小学生の頃は、この映画のワンシーンに憧れ、両親にクリプレとし、スケボーを買い与えて頂き、近所を走るバスに捕って乗ったりし、怒られたりもした。

ブルースリーに憧れ、又んチャクを作り、近所のスーパーで振り回し、おばさんを殴り、これまた怒られたりもした。

この様に昔から映画の影響が強い人間で、今でもロッキーを見たあとは、しばらく、世界チャンピオンを目指す傾向があり、実際に19の頃、亀田3兄弟の影響も手伝い、強気な態度でボクシングジムに出向いた事もあるが、やはり持続力のケラも無い俺に、トレーニングなどは無理な話で、気付けばモハメドアリとマイクタイソンの自伝映画ばかり見ており、それで世界チャンピオンの気分浸りに続けていた。

そして、少し話が脱線した事を軽く謝り、SF映画【バタフライエフェクト】の話に戻すが、まあ、これは俺的にはあるが、面白い映画であり、基本はSFを軸としたタイムパドックス系列の話なのだが、今までのものとはアイデアが違う様に感じ、新しく思えた。

【バタフライエフェクト】はシリーズ化されており、今現在1、2、3の3作品がレンタルビデオの絶対王者TSUTAYA様で借りれるのだが、特に俺が好きなのが1である。

シリーズ通し、共通する部分は、主人公の能力のみで、1に関しては無駄の無いストーリー展開と、話の入れ込みに衝撃を受けた。

そして、やはり、なにより、アイデア自体が素晴らしい作品の為、勧め書きを入れたいとも思ったわけだ。

ネタバラシの悲しさとメンドクササも含め、そのアイデアについてココでは書かないが、2に関して1つ毒付かせて頂くと、悪くは無いが、1からの飛躍という意味では、特に進歩は感じられず、新しいものを取り入れた箇所も特には、見当たらなかつたのだが、やはり根本となるパターン自体が新しいだけに、面白くないわけではない様に思う。

そして3は、前2作とはガラリと変わり、主人公が自分の能力に対し、理解しており、初めから使いこなしているという所を良く思い、作り手側も進化をテーマに置いたとシツカリ読み取れ、コチラは意味合いやジャンルは多少異なれ「1」に引けを取らない作品となっている様に感じた。

また、この手のミステリー色を強くした作品の場合、俺の様にヒネクレ映画通の場合、多少疑って掛かるものだが、それでも、やはりオチはシツカリ納得出来るものになっていた様に思い、「1」と「3」どっちが面白いなどの議論は避け、全作通し、平等に勧めてはおくが、特に初作という事もあり、ダンゼン「1」は勧めてはおく。

この1では、主人公と主人公の父親が刑務所の面会室で会話をしているシーンがあるのだが、話のトリックを含め、俺はこのシーンを見た瞬間に「参りました」「やってくれましたね」と思い鳥肌が立った。

もう1本もシリーズ通し、俺が良いと思えた作品で、また、これも同じ様に、SF色が強いものではあるが【ファイナル・ジェットコースター】や【ファイナル・サーキット】等のタイトルを持つ、ファイナルシリーズと言われるもので、やはり、コチラも全作通し、とにかく、そのパターンを素晴らしく思った。

少し小説の話をするが、人が死んだり、殺されたりする作品を書く事は俺は人より多いタイプだと思っているが、これは殺し方、殺され方、つまり殺すプロセスをどれだけ遊べるかが重要であるとも考えている。

「はい。ナイフで刺しました。死にました。殺されました」では話にならないのである。

必ず死んだ意味や、死ぬ過程、または死んだ事によるメリット、デメリットを計算しなければならぬわけで、そこに関しては、この【ファイナルシリーズ】は「監督か、脚本家か、誰かは知りませんが、こんなパターンを思い付いてしまったんですね。そりゃーシリーズ化もしますよね、チャンスがあれば、俺もこのパターンで1本作らせて下さいな」と、やはりコチラも俺が頭を下げてしまった作品である。

この様に、俺が映画を見るポイントは話の作りや、その根本となるパターンが多いわけだが、それだけでは無く、他にも細かい事を書き出すと、俳優の演技や、音や絵の作りなど、本当に細かくなってしまうので、ココではワリカシ小説作りに関係あると思える部分だけに絞って絞ってと書いて置いたし、今後も面白い映画などあれば、軽い解説を加え、提示していきたいと思う。

そして、それらが、なにかしらの参考程度にでもなってくれれば嬉

しく思う。

他にも映画では無いが、海外ドラマ【24】【プリズンブレイク】を筆頭としたスピード展開と編集技術の凝った作品が好きであり、そこにSF的思考を持ち得た【4400】は素晴らしく、無人島という、誰もが興味をそそられる舞台設定に、飛躍させたアイデアを盛り込んだ【ロスト】も勧めたいと思う。

この様にお手本となる物は沢山あるし、毎日が勉強であり、映画を1本見る度に、無意識を含め、小説作りの力になっていると信じ込み、今日もT S U T A Y Aの旧作コーナーとブックオフの激安コーナーをウロ付くわけである。

そして、両方105円で済む話なので、それを何より嬉しく思い、毎日感謝もしています。

ども。

とーよーでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3261v/>

《映画について》

2011年10月9日04時14分発行